

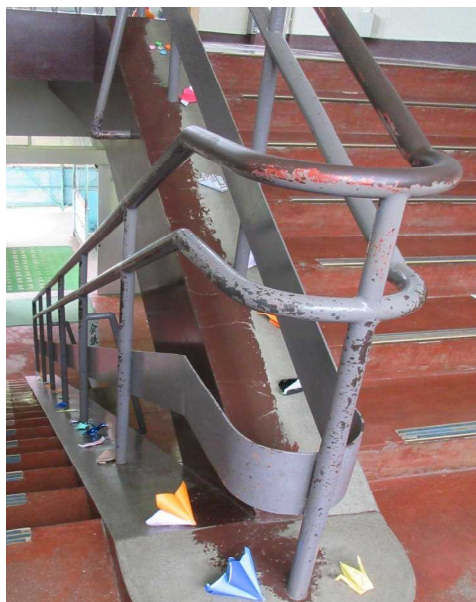
中央小ものがたり

令和4年7月15日

大村市立中央小学校

発行 石司 貴弘

やさしく かしく たくましく



環境が人を育てる 環境で人を育てる

中央小学校の階段手すりの構造をご存知でしょうか。落下防止の手すりの根元は、階段の傾斜に沿って滑り台状になっています。子どもたちにとっては、スリル感を味わえるある意味では魅力的な場所になっています。頭では「危ないから、滑ってはいけない」とわかってはいるものの、どうしても滑って遊んでしまう…そんな子がいます。大きなけがにつながっていないのは、ただ運がよかっただけ…なのかも知れません。

「子どもたちが滑って遊ばなくなる、そんなよいアイデアはないものか…」

濱田教頭の心からのつぶやきに反応し、本校職員が知恵を絞りました。採用された解決策は、

☆足を乗せることに、気が引けるようなものがあればよいのではないか

すると、早速6年生の子どもたち(生活・掲示委員会)が折り紙できれいな花や生き物などを作り、問題の場所に飾りました。殺風景だった階段が色とりどりに飾られ、見た目にも美しく、心が和む空間になりました。目的だった「事故を防止する」ことにもつながっています。このできごとが、教育のあり方について一つのヒントを示しています。

階段を走ったり、滑って遊んだりする子どもを見れば、大人は必ず「危ないです。走りません。」「静かに歩きましょう。」という声かけをします。眼の前で危険なことが起こっていますから、注意するのが当然です。子どもに気がつかって、声をかけなかったとします。でも、それが重大な事故につながったら…大変です。だから、子どもに煙たがられようが厳しい指導をすることもあります。

一方で、言われる側の子どもの受け取り方はどうでしょうか？注意されることで危険だということを理解し、遊ぶことをやめる子もいるでしょう。しかし、「先生に怒られたからやめる」という子もいます。このような子は、大人の眼がないところでは滑って遊ぶことを繰り返してしまいます。

☆「やめなさい！」(口頭での注意) … **大人がフレーキをかける**

☆よい行いに結びつく環境づくり … **子ども自身が心のフレーキをかける**

「本を読みなさい」と言う ⇔ 大人が一心に読書に耽る姿を見せる

「あいさつをきなさい」と言う ⇔ 大人が笑顔でさわやかにあいさつする

「勉強をきなさい」と言う ⇔ テレビ・パソコンを切って、静かな時間をつくる

※時と場合に応じて、どちらも大切です

ご家庭によって、つくる“環境”はそれぞれでしょう。うまくいった事例をみなさんと共有できれば“子育て力”アップにつながると思うのです。

心を磨く 朝のボランティア活動

右の写真は朝の始業前のひとコマです。5年生と6年生は実にいろいろな役割を担っています。

○委員会活動…健康、図書、国旗、飼育動物、体育用具、掲示物…。

○学級の仕事…教室の整理など、みんなが気持ちよく過ごすための準備などなど、子どもたちもかなり忙しいのです。

そんな中であって、自分の役目が終わった子は、写真のようにボランティア活動を行います。

☆玄関や北門などに立ってあいさつをする

☆玄関や中庭などを掃き清める

☆低学年の学習準備のお手伝いをする

それぞれに気付いたこと、必要だと思ったことに取り組んでいます。大人にやらされているわけではなく、自分の時間に“みんなが喜ぶ仕事”をしています。

こんな姿を見せられたら、下級生は高学年に憧れを抱きます。そして、私たち大人ももっと頑張らねばと励まされます。子どもの背中に教えられる思いがするのです。



非行防止キャラバン

～ 下校見守り ～

7月12日(火) 真夏の太陽が照りつける暑い日でしたが、中央小学校区健全育成協議会(廣島 均会長)の皆様による下校見守りをしていただきました。今回は1・2年生の子どもたちが地区ごとにまとまり、通学路を実際に歩いていただきました。

岸川事務局長様からは、

「大人目線で気付かなくても、子ども目線で見ると興味が湧いたり、危険であったりすることがあります。実際に歩いてみて確かめましょう。」

とのお話がありました。先日の“誘拐予告”に対応した集団下校の際にも、即座に対応してくださるなど、地域の皆様がどれだけ子どもたちのことを大切に思っておられるか、あらためて感じた次第です。

子どもたちの安全は、学校だけで、家庭だけで守れるものではありません。ご自分の時間を子どもたちのためにつかって、汗をかいて見守ってくださる方々がおられます。心からのお礼を申し上げます。ありがとうございました。